

## 長期デフレ不況の理論モデル ーゼロ金利制約・テイラールール・産出ギャップー

早稲田大学 井上 智洋

早稲田大学 品川 俊介

中央大学 都築 栄司

Inoue and Tsuzuki (2011)と同様に、「持続的な技術進歩」と「ニューケインジアンフィリップス曲線」を含むDGEモデルを構築する。ただし、金融政策として Benhabib et al. (2001)で提示された「ゼロ金利制約を考慮したテイラールール」を採用する。その結果、「望ましい定常状態」と「望ましくない定常状態」の2つが発生する。産出ギャップがゼロになる望ましい定常状態を中央銀行が目指したとしても、期待の如何によっては望ましくない定常状態が実現することがある。後者の定常状態ではデフレーションを伴った産出ギャップがもたらされる。それはつまり、長期デフレ不況が発生する可能性を示している。

Benhabib, J., S. Schmitt-Grohe and M. Uribe (2001) “The Perils of Taylor Rules,”

*Journal of Economic Theory*, 96, pp.40-69.

Inoue, T. and E. Tsuzuki (2011) “A New Keynesian Model with Technological

Change,” *Economics Letters*, 110, 3, pp.206-208.